



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月30日

上場会社名	株式会社 東北銀行	上場取引所	東
コード番号	8349 URL https://www.tohoku-bank.co.jp/		
代表者	(役職名) 取締役頭取 (氏名) 佐藤 健志		
問合せ先責任者	(役職名) 経営企画部長 (氏名) 橋場 大輔	TEL	019-651-6161
配当支払開始予定日	—		
決算補足説明資料作成の有無 : 有	特定取引勘定設置の有無	無	
決算説明会開催の有無 : 無			

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	13,330	19.2	2,198	41.9	1,542	48.2
2025年3月期第3四半期	11,184	△0.5	1,549	7.1	1,040	10.2

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 705百万円 (−%) 2025年3月期第3四半期 △1,460百万円 (−%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	161.84	92.40
2025年3月期第3四半期	109.50	57.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	1,049,187	35,605	3.4
2025年3月期	1,009,613	35,376	3.5

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 35,605百万円 2025年3月期 35,376百万円

(注) 「自己資本比率」は、期末純資産の部合計を期末資産の部合計で除して算出しております。なお、本「自己資本比率」は、自己資本比率告示に定める自己資本比率ではありません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 25.00	円 銭 —	円 銭 25.00	円 銭 50.00
2026年3月期	—	25.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				25.00	50.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当行が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	16,800	11.8	2,600	31.7	1,700	58.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ： 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ： 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ： 無 |
| ④ 修正再表示 | ： 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3 Q	9,509,963株	2025年3月期	9,509,963株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3 Q	49,424株	2025年3月期	57,577株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3 Q	9,457,404株	2025年3月期 3 Q	9,500,394株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当行が発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当行として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は次のとおりであります。

第一種優先株式	年間配当金					配当金総額
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.125	円 銭 —	円 銭 0.125	円 銭 0.25	百万円 1
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 2.875	円 銭 —			
2026年3月期(予想)				2.875	5.75	23

(注)直近に公表されている種類株式の配当予想からの修正の有無：無

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	5
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	5
(セグメント情報等の注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6

(別紙) 2026年3月期 第3四半期 決算ハイライト

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加などにより、前年同四半期連結累計期間比21億46百万円增收の133億30百万円となりました。経常費用は、預金利息の増加などにより同14億96百万円増加し111億31百万円となりました。

以上の結果、経常利益は6億49百万円増益の21億98百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同5億2百万円増益の15億42百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の連結財政状態につきましては、預金等（譲渡性預金を含む）は、法人預金、個人預金及び公金預金の全ての預金者層が増加したことにより、前連結会計年度末比231億23百万円増加し9,448億51百万円となりました。

貸出金は、中小企業向け貸出、個人向け貸出及び大企業向け貸出の増加により、前連結会計年度末比229億70百万円増加し7,177億33百万円となりました。

有価証券は、前連結会計年度末比27億59百万円増加し2,181億70百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月12日に公表いたしました2026年3月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
現金預け金	63,411	79,011
コールローン及び買入手形	5,000	—
金銭の信託	7,802	8,231
有価証券	215,411	218,170
貸出金	694,763	717,733
外国為替	658	—
その他資産	10,195	10,690
有形固定資産	7,114	7,368
無形固定資産	343	560
退職給付に係る資産	1,556	1,587
繰延税金資産	4,190	4,588
支払承諾見返	3,347	4,860
貸倒引当金	△4,182	△3,615
資産の部合計	1,009,613	1,049,187
負債の部		
預金	921,728	940,640
譲渡性預金	—	4,211
債券貸借取引受入担保金	38,987	55,863
借用金	1,110	1,059
外国為替	0	—
その他負債	8,290	6,166
退職給付に係る負債	7	6
偶発損失引当金	143	149
ポイント引当金	47	49
再評価に係る繰延税金負債	573	573
支払承諾	3,347	4,860
負債の部合計	974,237	1,013,581
純資産の部		
資本金	13,233	13,233
資本剰余金	11,998	11,998
利益剰余金	15,890	16,946
自己株式	△69	△59
株主資本合計	41,052	42,119
その他有価証券評価差額金	△6,946	△7,746
土地再評価差額金	1,158	1,158
退職給付に係る調整累計額	110	74
その他の包括利益累計額合計	△5,676	△6,513
純資産の部合計	35,376	35,605
負債及び純資産の部合計	1,009,613	1,049,187

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
経常収益	11,184	13,330
資金運用収益	7,648	9,291
(うち貸出金利息)	6,294	7,565
(うち有価証券利息配当金)	1,255	1,539
役務取引等収益	2,113	2,262
その他業務収益	846	1,193
その他経常収益	575	582
経常費用	9,635	11,131
資金調達費用	333	1,434
(うち預金利息)	294	1,222
役務取引等費用	544	576
その他業務費用	740	1,167
営業経費	6,686	6,973
その他経常費用	1,330	979
経常利益	1,549	2,198
特別利益	0	0
固定資産処分益	0	0
特別損失	8	3
固定資産処分損	4	3
減損損失	3	—
税金等調整前四半期純利益	1,541	2,195
法人税等合計	500	653
四半期純利益	1,040	1,542
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,040	1,542

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,040	1,542
その他の包括利益	△2,501	△836
その他有価証券評価差額金	△2,475	△800
退職給付に係る調整額	△26	△36
四半期包括利益	△1,460	705
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,460	705

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業務	リース業務	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	10,057	794	10,852	332	11,184	—	11,184
セグメント間の内部経常収益	54	37	91	17	109	△109	—
計	10,112	831	10,943	350	11,294	△109	11,184
セグメント利益	1,466	43	1,510	39	1,549	—	1,549

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業務セグメントにおいて固定資産の減損損失が発生しておりますが、金額が僅少のため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業務	リース業務	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	11,986	999	12,985	345	13,330	—	13,330
セグメント間の内部経常収益	63	39	103	14	117	△117	—
計	12,049	1,038	13,088	359	13,447	△117	13,330
セグメント利益	2,135	32	2,168	30	2,198	—	2,198

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費 304百万円	344百万円

(注) 第3四半期連結累計期間において、のれんの償却額は発生しておりません。

2026年3月期 第3四半期 決算ハイライト



I. とうぎんVision	2
II. 第2次中期経営計画	3
III. 2026年3月期 第3四半期決算の概要	4
1. 損益状況【単体】	4
2. 損益予想【単体】	5
3. 主要勘定の状況【単体】	6
4. 預り資産の状況【単体】	9
5. 不良債権の状況【単体・連結】	10
6. 自己資本比率の状況【単体・連結】	11





- コアバリューとパーパスは普遍であり、当行が進むべき『道しるべ』です。
- コアバリューとパーパスを追求するための計画が長期経営計画です。

コアバリュー（経営理念）

「地域金融機関として地域社会の発展に尽くし共に栄える」

1950年（昭和25年11月1日）、東北銀行は、県民の要望に応える形で岩手県商工会議所連合会を中心となり、地元企業のための銀行として設立された戦後第一号の地方銀行です。

「地域金融機関として地域社会の発展に尽くし共に栄える」という経営理念は普遍であり、私たちはこれからの未来も地域社会と共に在ります。

パーパス（存在意義）

「地域力の向上」

私たちは、地域金融機関として、地域のお客様と共に、この地でより良い未来を創っていきたいと考えています。

ここに住む一人一人が、ずっと住み続けたいと思える魅力ある地域にするためには、経済の活力が必要です。より良い地域を創っていくよう、私たちは最大限の力を発揮して参ります。

長期経営計画

「2037年3月末までに公的資金返済、返済後の単体自己資本比率8.5%以上」

「コアバリュー」と「パーパス」を追求し、地域社会に貢献し続けるためには、自らも安定した経営基盤が必要となります。今後も地域と共に栄していくために、私たち自身が健全性を維持し、地域の一員として成長して参ります。

テ ー マ	共感 共鳴 共創
期 間	2025年4月1日～2028年3月31日



経営数値目標

指 標	最終年度目標
当期純利益	20億円
お客さまサービス等利益※ (本業利益)	20億円
自己資本比率	8.5%以上
総預金残高	1兆円
総貸出金残高	7,500億円

重点戦略

プロジェクトI	地域の活性化支援
プロジェクトII	脱炭素化支援と一次産業支援
プロジェクトIII	収益力の拡大
プロジェクトIV	組織力の強化

※お客さまサービス等利益 = 「貸出金平均残高」 × 「預貸金利回較差」 + 「役務取引等利益」 - 「営業経費」

Ⅲ. 2026年3月期 第3四半期決算の概要

TOHOKU BANK

1. 損益状況【単体】

	2026年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期比	2025年3月期 第3四半期
経常収益	12,049	2,022	10,027
業務粗利益	9,171	668	8,503
資金利益	7,895	563	7,332
役務取引等利益	1,387	203	1,184
その他業務利益	△ 111	△ 99	△ 12
①うち国債等債券損益	△ 106	△ 102	△ 4
経費	6,667	291	6,376
人件費	3,425	109	3,316
物件費	2,766	143	2,623
税金	475	38	437
②業務純益（一般貸倒引当金繰入前）	2,503	376	2,127
コア業務純益（② - ①）	2,609	478	2,131
コア業務純益（除く投資信託解約損益）	2,609	506	2,103
③一般貸倒引当金繰入額	30	△ 108	138
業務純益	2,473	484	1,989
臨時損益	△ 326	300	△ 626
④うち不良債権処理額	707	△ 334	1,041
うち株式等関係損益	211	△ 22	233
⑤うち貸倒引当金戻入益	-	-	-
⑥うち償却債権取立益	11	△ 2	13
経常利益	2,135	775	1,360
特別損益	△ 3	△ 117	114
税引前四半期純利益	2,132	658	1,474
法人税等合計	629	190	439
四半期純利益	1,503	469	1,034
お客さまサービス等利益	1,398	509	889
与信関連費用（③ + ④ - ⑤ - ⑥）	726	△ 439	1,165

(注) コア業務純益（除く投資信託解約損益）は、コア業務純益から資金利益に計上された投資信託解約損益を差し引いております。

(単位：百万円)

経常収益

貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加などにより、2025年3月期第3四半期比20億22百万円增收の120億49百万円となりました。

コア業務純益

資金利益及び役務取引等利益の増加などにより、同4億78百万円増益の26億9百万円となりました。

経常利益

与信関連費用の減少などにより、同7億75百万円増益の21億35百万円となりました。

四半期純利益

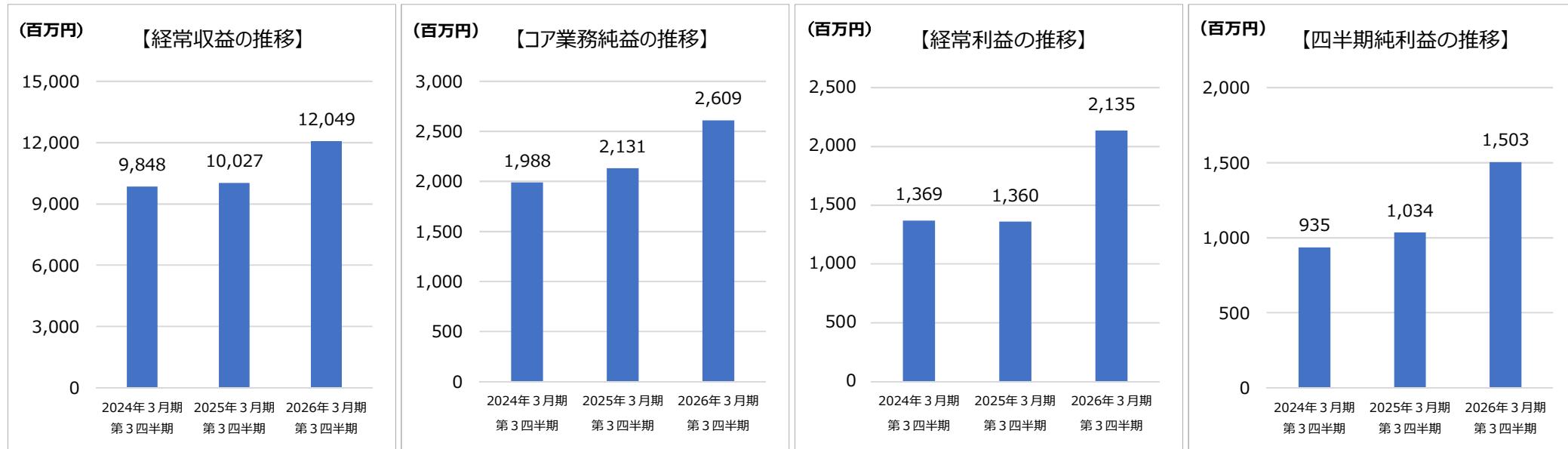
同4億69百万円増益の15億3百万円となりました。

お客さまサービス等利益

貸出金平残、預貸金利回り較差及び役務取引等利益の増加により、同5億9百万円増益の13億98百万円となりました。

お客さまサービス等利益 = 貸出金平残×預貸金利回り較差 + 役務取引等利益 - 経費

【参考】



2. 損益予想【単体】

※『2. 損益予想【単体】』の内容には、一部、将来に対する予測が含まれており、その内容にはリスク、不確実性、仮定が含まれております。当行の実際の経営成績はここに記載されている将来に対する予測と大きく異なる可能性があります。

2026年3月期の業績予想は、2025年4月より『共感・共鳴・共創』をテーマにスタートした第2次中期経営計画に基づき、より一層の収益力強化に取り組むことで、経常収益154億円、経常利益25億円、当期純利益16億円を見込んでおります。

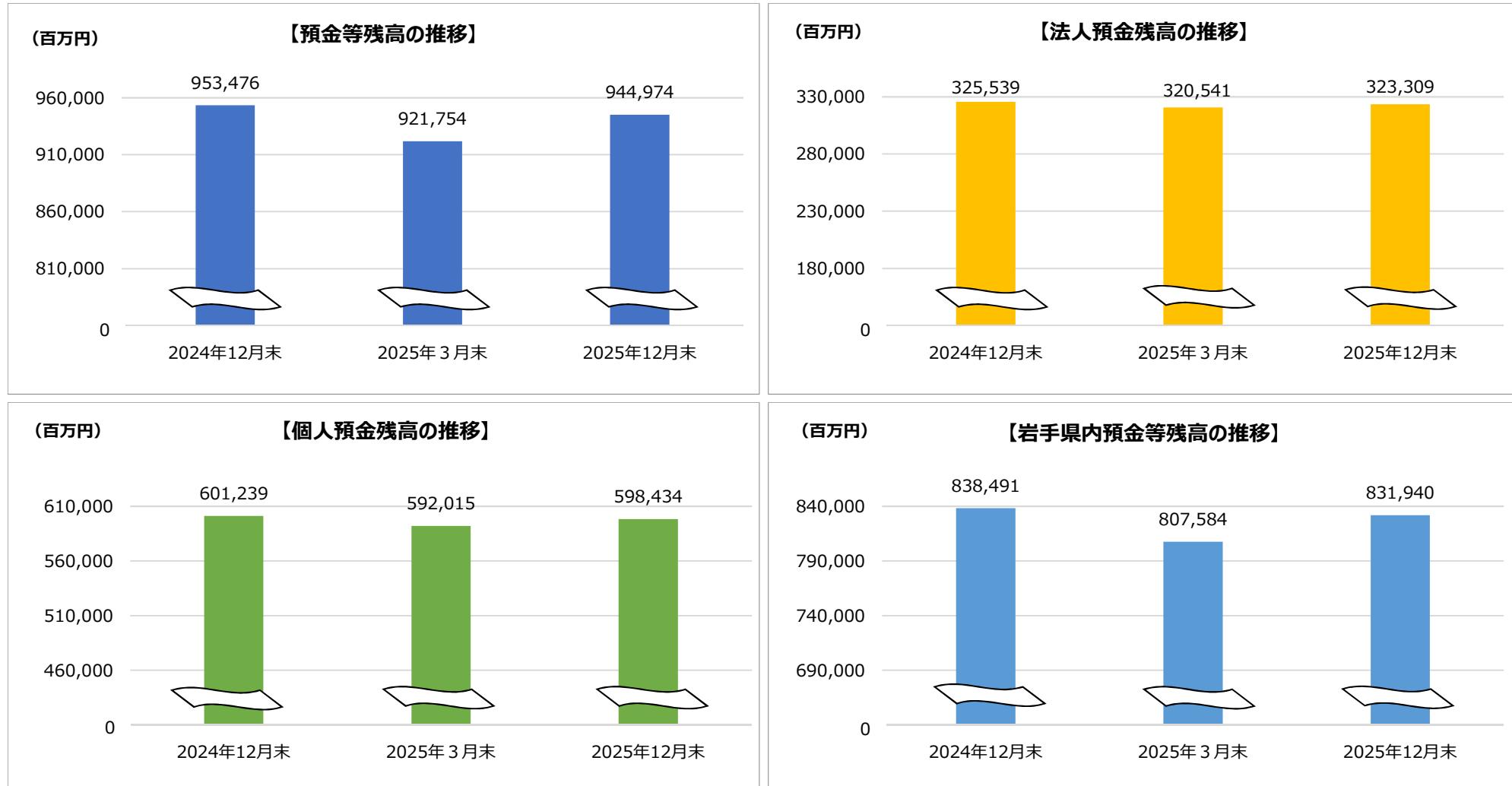
	2026年3月期 第3四半期 実 績	2026年3月期 業績予想
経常収益	12,049	15,400
経常利益	2,135	2,500
当期(四半期) 純利益	1,503	1,600



3. 主要勘定の状況【単体】

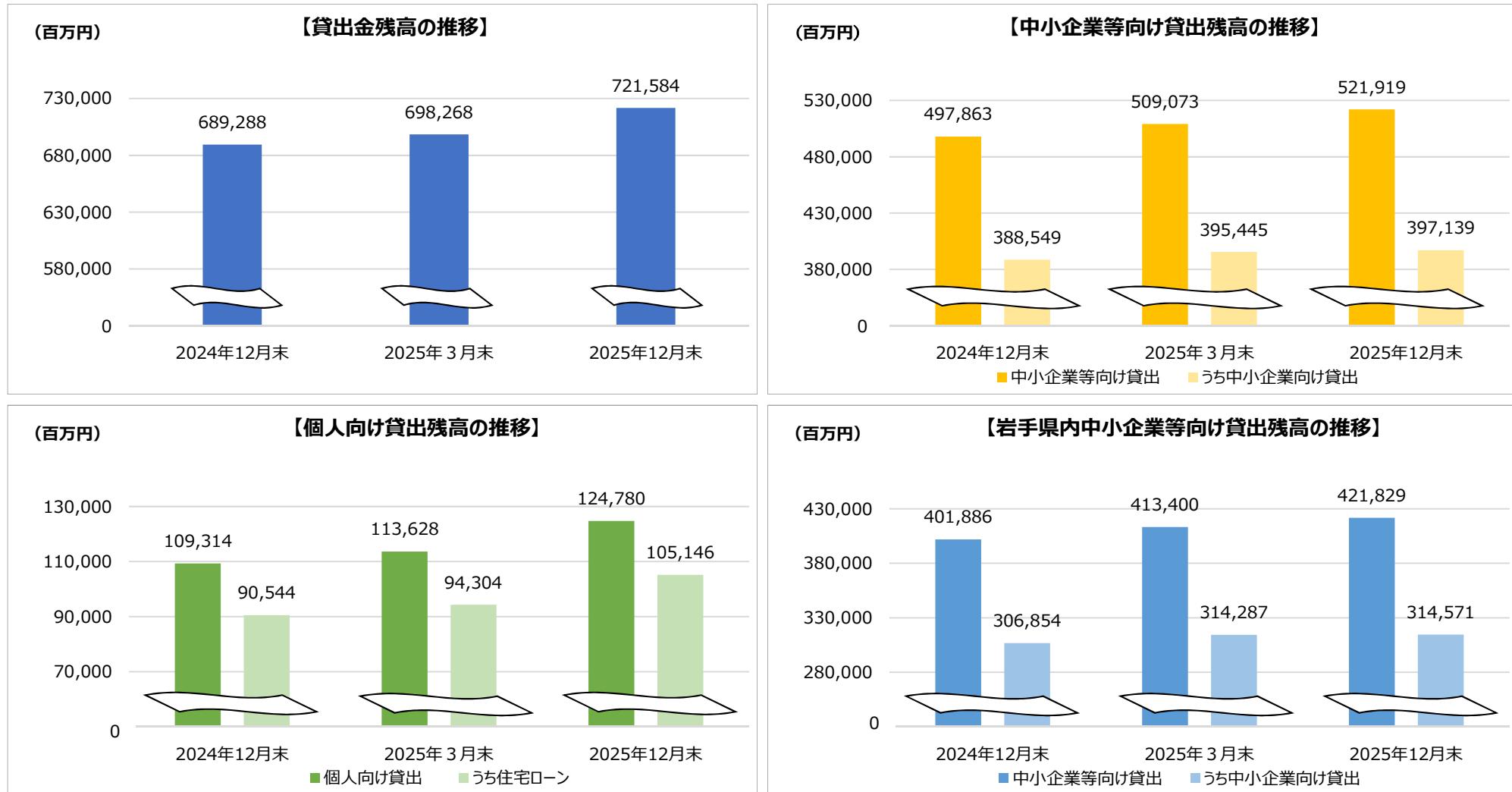
(1)預金等の状況

預金等残高（譲渡性預金を含む）は、個人預金の減少などにより、2024年12月末比85億2百万円減少し9,449億74百万円となりました。



(2)貸出金の状況

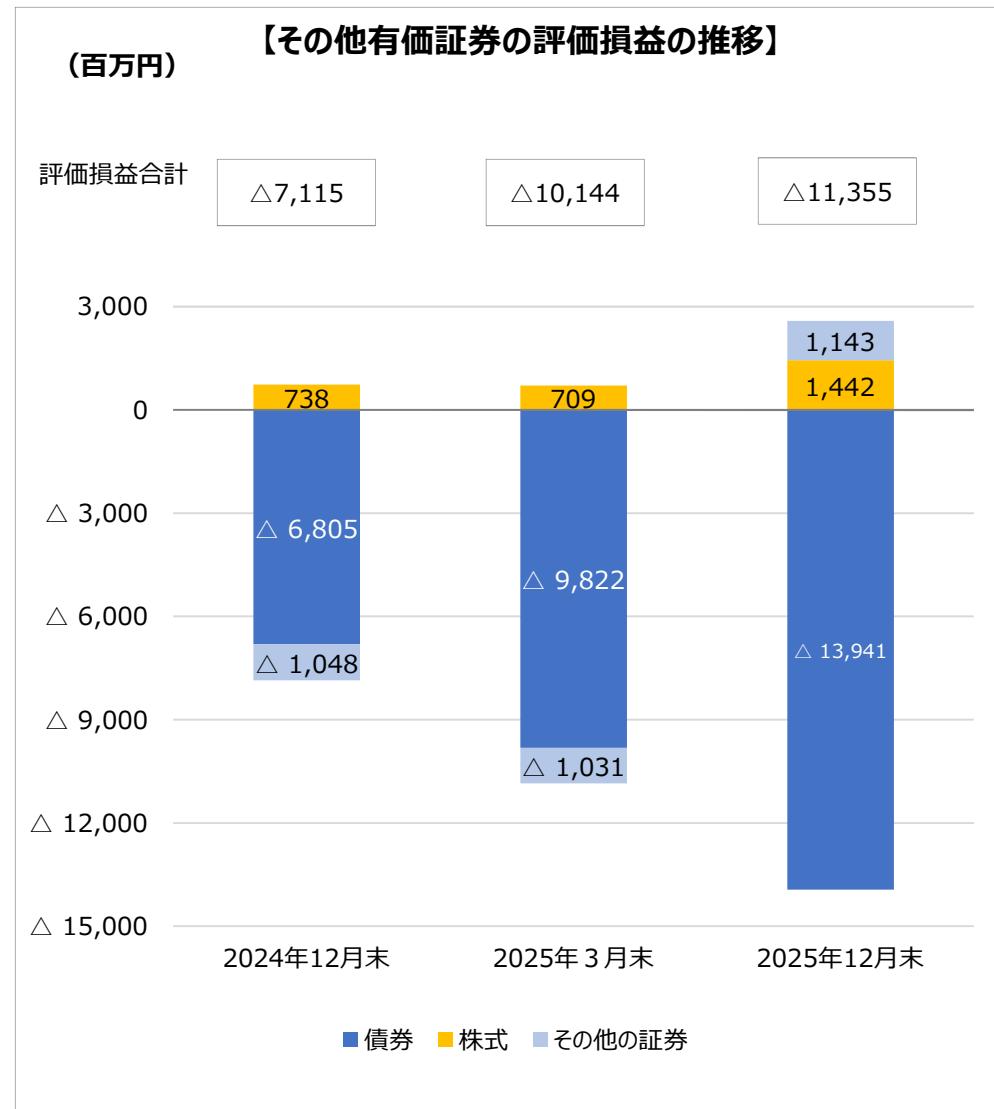
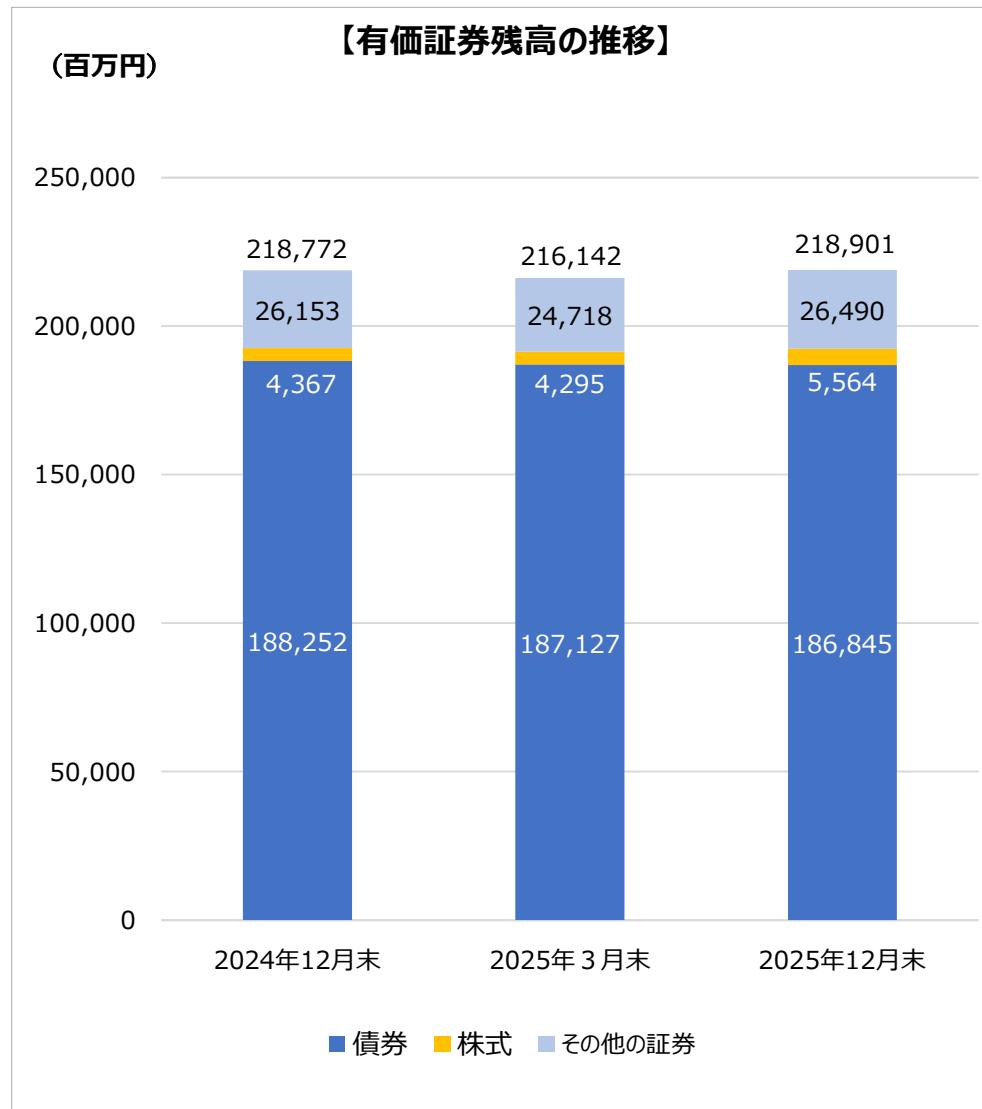
貸出金残高は、中小企業向け貸出及び個人向け貸出の増加などにより、2024年12月末比322億96百万円増加し7,215億84百万円となりました。



※ 中小企業等向け貸出 = 中小企業向け貸出 + 個人向け貸出

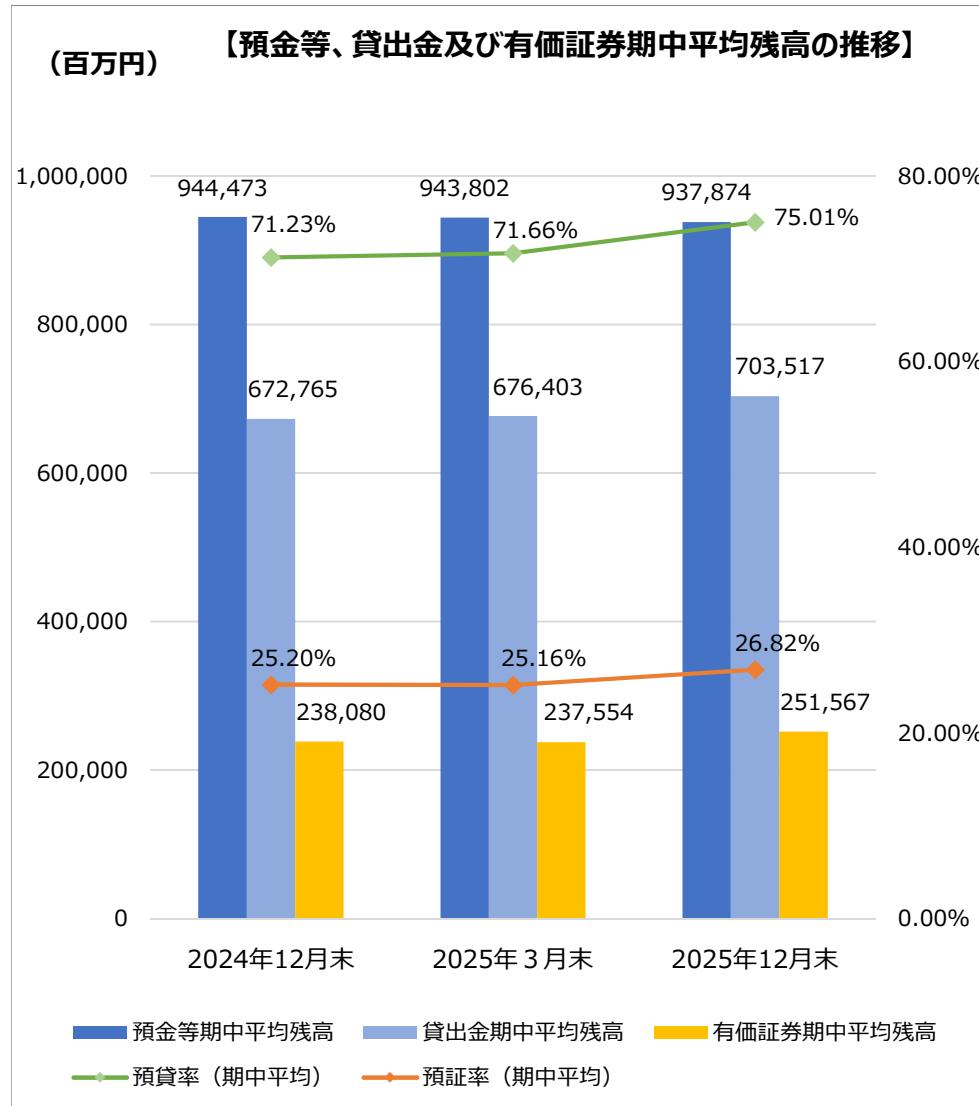
(3)有価証券の状況

有価証券残高は、2024年12月末比1億29百万円増加し2,189億1百万円となりました。その他有価証券の評価損益合計は、債券の評価損の増加などにより、同42億40百万円減少し△113億55百万円となりました。なお、債券は国内の国債や地方債及び社債が中心であります。



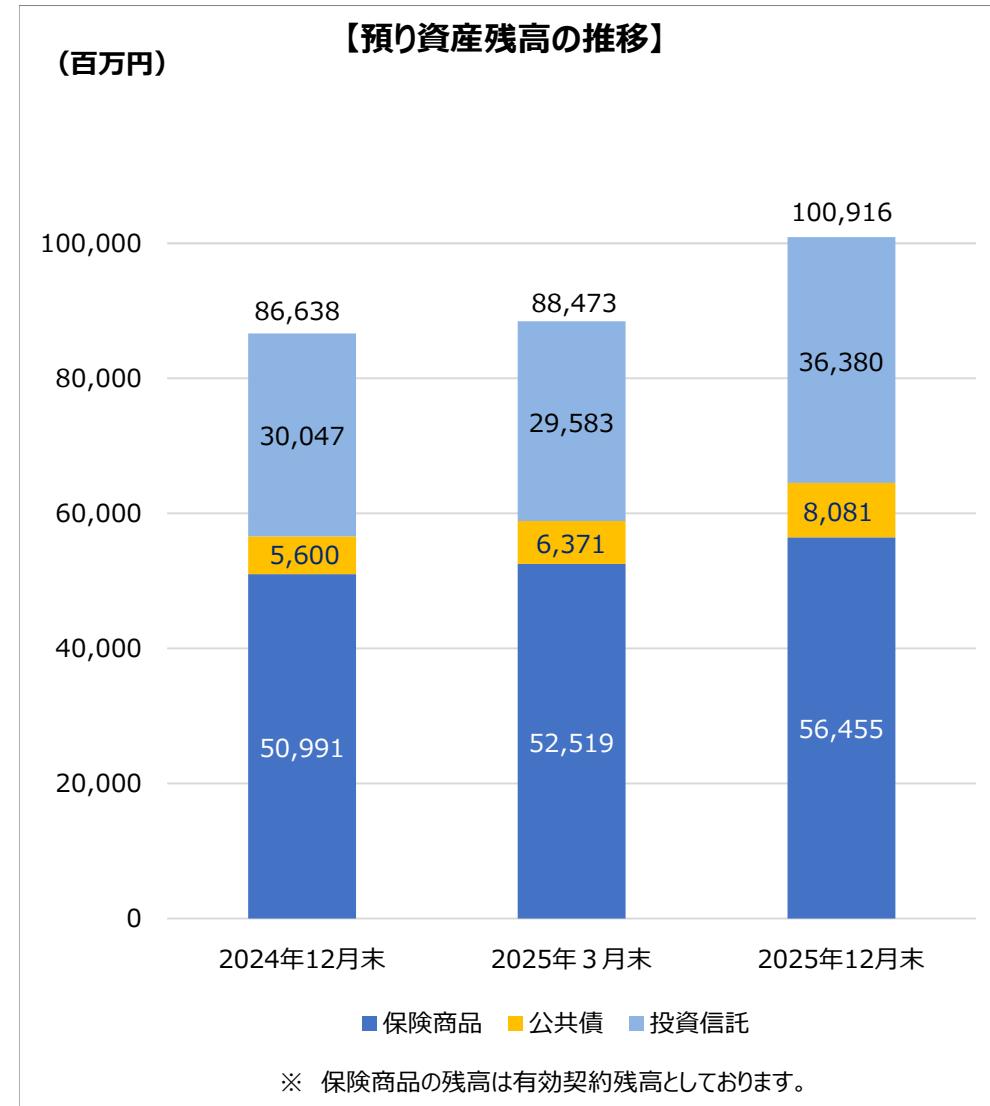
(4)預貸率、預証率の状況

預貸率は2024年12月末比3.78ポイント上昇し75.01%、預証率は同1.62ポイント上昇し26.82%となりました。



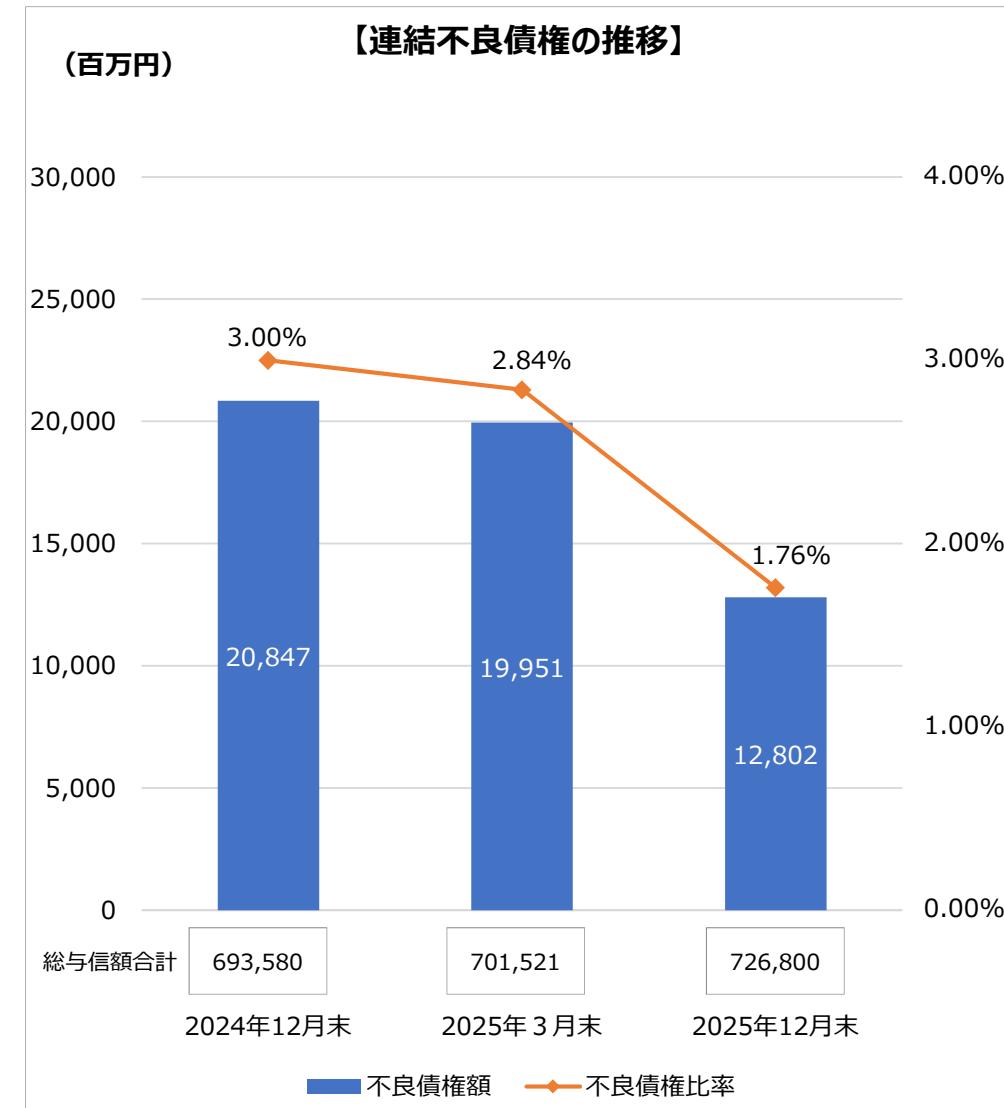
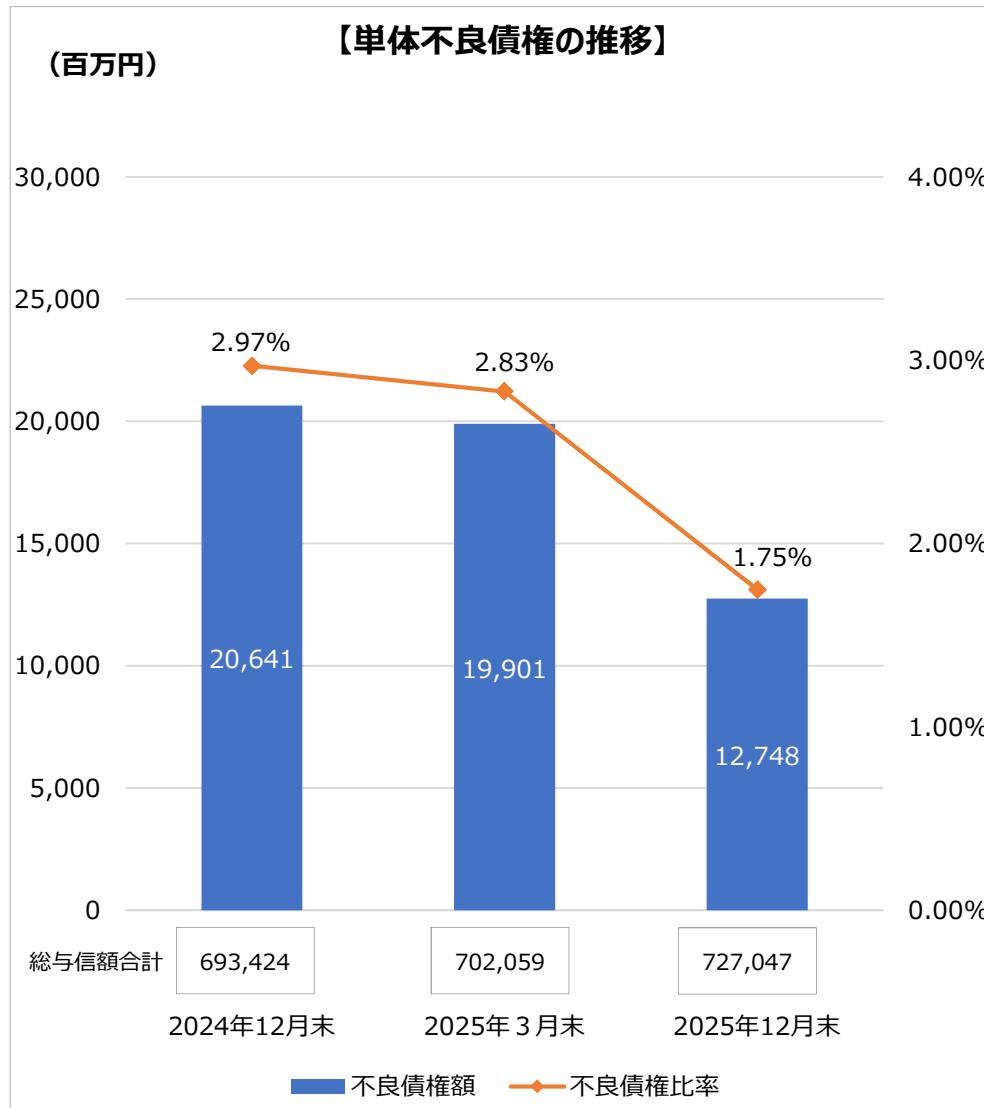
4. 預り資産の状況【単体】

預り資産残高は、2024年12月末比142億78百万円増加し1,009億16百万円となりました。



5. 不良債権の状況【単体・連結】

単体の不良債権額は、2024年12月末比78億93百万円減少し127億48百万円、不良債権比率は、同1.22ポイント低下し1.75%となりました。連結の不良債権額は、同80億45百万円減少し128億2百万円となりました。不良債権比率は、同1.24ポイント低下し1.76%となりました。



6. 自己資本比率の状況【単体・連結】

自己資本比率は国内基準（4%）を採用しております。利益剰余金の着実な積み上げによる自己資本の額の増加等により、単体は2024年12月末比0.15ポイント上昇し8.79%、連結は同0.01ポイント上昇し8.85%となりました。

